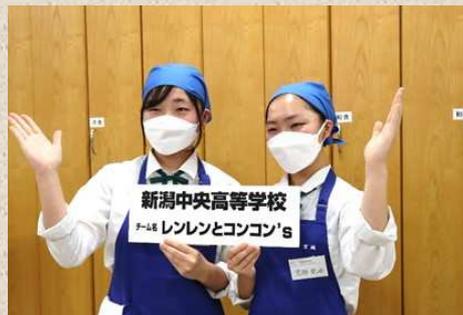




## 2022年度 環境経営レポート



### 株式会社ウオロク

2023年8月14日発行

対象期間：2022年4月～2023年3月



## ごあいさつ

当社は「お客様から叱られ、愛され、親しまれ」の企業理念のもと、創業以来多くのお客様とお取引様に支えられ、おかげさまで、昨年スーパーマーケット開業60周年を迎えることができました。心より感謝申し上げます。

さて、当社は2012年にエコアクション21の認証を取得して以来、10年が経過しました。この間、社内ではマネジメントシステムとしてすっかり定着し、今や欠くことができないものとなっています。今後もこのしくみを活用し、時代や社会の要請に応えながら、持続可能な社会実現に向けて様々な取り組みを行ってまいります。

今後とも、より一層のご指導賜りますようお願いいたします。

2023年8月吉日

株式会社ウオロク

代表取締役社長 本多 伸一

1. 環境経営方針	3
2. 登録事業所の概要	4
3. エコアクション2.1推進体制	7
4-1. 2020年度からの中期環境目標	8
- 2. 2022年度の取り組み内容と実績評価	9
- 3. 2023年度からの中期環境経営目標	17
- 4. 2023年度の環境経営計画	18
5. 環境・社会貢献の取り組み	19
6. 緊急事態の想定とその対応	29
7. 環境関連法規の遵守状況	31
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	32

## 1. ウオロクの環境経営方針（2021年版）



### <基本理念>

私たちは、地域社会の一員として環境保全活動に取り組むとともに、環境経営を継続的に発展させ、持続可能な社会の実現に貢献します。

### <基本方針>

1. 環境や社会に配慮した商品を積極的に販売します。
2. 食品廃棄物の削減とリサイクルに取り組めます。
3. 二酸化炭素排出量の削減を推進します。
4. 資源の節約と有効活用を努めます。
5. 環境関連の法律、規制、条例等を遵守します。
6. 環境教育を継続的に実施します。



## 2. 登録事業所の概要

### (1) 事業所名及び代表者名

株式会社ウオロク 代表取締役社長 本多 伸一

### (2) 本社所在地

〒950-8660 新潟市中央区鏡2丁目14番13号

### (3) 環境関連責任者及び担当者連絡先

環境統括責任者：原 恒栄（常務取締役）

担当者：飯ヶ浜耕治（総務部次長）

連絡先：TEL：025-246-6122 FAX：025-248-5411

メール：[kankyo-csr@uoroku.co.jp](mailto:kankyo-csr@uoroku.co.jp)

### (4) 事業の内容

生鮮食品、加工食品、日用雑貨、医薬品、衣料品等の小売販売  
環境活動の対象範囲は、全組織・全活動を含む

店舗… 44店舗 加工センター… 2ヶ所 本社… 1ヶ所

4



## 2. 登録事業所の概要

### (5) 事業の規模

	2020年度	2021年度	2022年度
売上高（百万円）	81,647	83,762	86,660
総従業員数（人、期末）	3,629	3,728	3,823
売場面積（㎡、期末）	85,914	90,041	90,457

### (6) 主要環境データ

項目	単位	2020年度	2021年度	2022年度
二酸化炭素排出量※1	t-CO2/年	29,428	25,313	27,451
発生原単位※2	t-CO2/㎡	0.343	0.281	0.303
総排水量※3	㎡/年	255,412	257,384	266,100
一般廃棄物排出量	トン/年	8,851	8,894	8,855
産業廃棄物排出量	トン/年	869	870	741
食品廃棄物排出量	トン/年	2,045	2,088	2,108
発生原単位※4	kg/百万円	25.05	24.94	24.33
再生利用量	トン/年	1,392.2	1,382.4	1,428.9
内訳（肥料/飼料/メタン/油脂）	トン/年	891.8/344.7/155.7/0	870.5/333.4/178.5/0	791.2/467.6/164.0/6.1
再生利用等実施率	%	74.9	73.6	78.1

※1 購入電力の二酸化炭素排出係数 = 東北電力の直近の実排出係数（単位：kg-CO2/kWh）  
2019年：0.000522、2020年：0.000457、2021年：0.000488

※2 計算式：CO2排出量/売場面積

※3 総排水量は総水道使用量を近似値として置き換える。

※4 計算式：食品廃棄物廃棄量/売上高

5



## 2. 登録事業所の概要

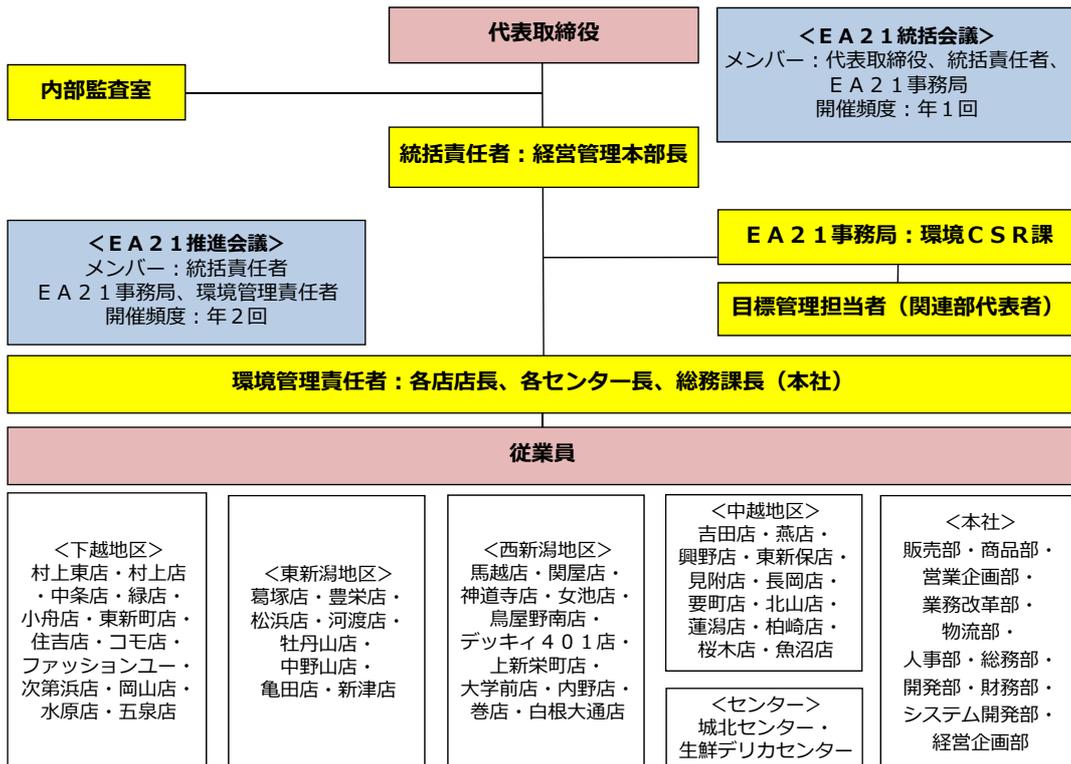
### (7) 施設一覧 (2023年3月31日現在)

名称	所在地	売場面積(m <sup>2</sup> )	名称	所在地	売場面積(m <sup>2</sup> )
本社	新潟市中央区鏡2丁目14番13号	-	上新栄町店	新潟市西区上新栄町4丁目8番5号	984
城北センター	新潟市城北町3丁目4番20号	-	白根大通店	新潟市南区上塩俵1923番地	1,902
生鮮デリカセンター	新潟市江南区茗荷谷1433番地	-	関屋店	新潟市中央区関屋2番地98	1,610
中条店	胎内市野中347番地4	2,039	河渡店	新潟市東区幸栄3丁目1番26号	943
岡山店	阿賀野市岡山町340番地1	1,040	松浜店	新潟市北区松浜新町1番23号	946
村上東店	村上市山辺里371番3	1,027	豊栄店	新潟市北区石動2丁目5番3号	2,399
緑店	新潟市緑町3丁目3番23号	3,768	新津店	新潟市秋葉区新津5163番地3	5,018
水原店	阿賀野市市野山221	2,805	葛塚店	新潟市北区太田甲5807番地	2,036
東新町店	新潟市東区東新町4丁目21番24号	2,097	牡丹山店	新潟市東区牡丹山3丁目18番34号	2,052
村上市	村上市仲間町542番地-1	2,062	中野山店	新潟市東区若葉町1丁目19番66号	2,061
住吉店	新潟市住吉町4丁目1番21号	2,004	亀田店	新潟市江南区亀田大月1丁目2番40号	1,943
五泉店	五泉市今泉930番地	2,085	見附店	見附市葛巻町1655番地	2,386
コモ店	新潟市舟入町3丁目12番11号	5,108	吉田店	燕市吉田西太田835番地1	1,932
ファッションユ-	新潟市舟入町3丁目9番23号	741	長岡店	長岡市日赤町2丁目6番1号	5,494
次第浜店	北蒲原郡聖籠町次第浜1670番地2	511	要町店	長岡市要町2丁目1番17号	2,101
小舟店	新潟市小舟町1丁目7番4号	2,190	北山店	長岡市北山3丁目5番1号	1,294
女池店	新潟市中央区女池6丁目19番20号	1,007	蓮湯店	長岡市蓮湯1丁目16番21号	1,724
神道寺店	新潟市中央区神道寺1丁目56番1	2,052	興野店	三条市興野1丁目16番31号	1,952
大学前店	新潟市西区坂井753番地	1,923	柏崎店	柏崎市宝町1番84号	2,943
デッキ401店	新潟市中央区上近江4丁目12番20号	2,227	東新保店	三条市東新保25番15号	2,059
巻店	新潟市西蒲区巻甲4862番地	1,566	桜木店	柏崎市桜木町24番35号	1,933
鳥屋野南店	新潟市中央区鳥屋野2005番1	1,528	魚沼店	魚沼市吉田1106番地	2,197
馬越店	新潟市中央区本馬越2丁目2番17号	1,614	燕店	燕市大曲515番地	2,116
内野店	新潟市西区槇尾1425番地1	1,040			

6



## 3. エコアクション21推進体制



7



## 4-1. 2020年度からの中期環境目標

目標内容	単位	2019年度 (基準年度)	2020年度	2021年度	2022年度
売場面積当りの電力使用量	kWh/m <sup>2</sup>	31.30	30.98	30.67	30.37
電力使用量を年1%以上削減 指標計算式：年間電力使用量(kWh)÷事業所の延床面積(m <sup>2</sup> ) ※事業所の延床面積は月次で積算					
売上高当り水道使用量	m <sup>3</sup> /百万円	3.2626	3.2299	3.1976	3.1656
水資源投入量を年1%以上改善 指標計算式：年間水道使用量(m <sup>3</sup> )÷年間売上高(百万円)					
地場産直野菜販売額	百万円	1,571	1,651	1,696	1,728
地場産直野菜の販売額を3年後までに10%以上拡大 指標：地場産直野菜の販売額					
コピー用紙使用量	kg	28,997	28,707	28,419	28,134
コピー用紙の使用量を毎年1%ずつ削減する 指標：年間コピー用紙使用量(kg)					
廃棄ロス率の改善	%	0.9	0.8	0.8	0.8
生鮮・日配部門の廃棄ロス率を毎年0.8%以内に抑える 指標計算式：年間廃棄ロス額(円)÷年間売上高(円)					
食品リサイクル法の再生利用率	%	62.9	63.9	64.9	65.9
食品リサイクル法の基準実施率を達成する。 指標：食品リサイクル法定期報告の再生利用率					
コジカカードホルダーの拡大	%	67.0	71.0	73.0	75.0
コジカカード提示率を3年後に75%とする。 指標計算式：コジカカード提示者数÷年間客数(人)					
営業車の燃費改善			実態把握	目標設定	
2020年度に実態を把握し、2021年度以降に目標を設定する					

8



## 4-2. 2022年度の取り組み内容と実績評価

### (1) 売場(延床)面積あたりの電力使用量を毎年1%改善

項目	2020年度	2021年度	2022年度
目標(kWh/m <sup>2</sup> )	30.98	30.67	30.37
(修正)		29.11	27.77
実績(kWh/m <sup>2</sup> )	30.01	28.63	28.33
目標比(%)	96.9	98.4	102.0
評価	達成	達成	未達
延床面積(m <sup>2</sup> )	1,757,226	1,801,838	1,891,557

取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>空調自動制御システムの追加導入(5店舗)</li> <li>デマンド監視装置を活用した使用量モニタリングと個別店舗指導</li> <li>不使用機器の電源OFFなどの節電行動</li> <li>太陽光発電設備の追加導入(1センター+8店舗)</li> </ul>
実績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標は未達成となった。</li> <li>2022年度に稼働開始した生鮮デリカセンターの影響が大きいため、生鮮デリカセンターを除いた状態で前年比較すると96.1%となり、目標を達成している。</li> </ul>
23年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>不使用機器の電源OFFの徹底(特に電気ヒーター系)</li> <li>実験中省エネ対策の検証(遮熱塗装、冷ケースカーテン)</li> <li>デマンド監視装置を活用した週ごとの実績比較、デマンド超過対策の継続</li> <li>空調自動制御(2店舗)、太陽光発電設備(1店舗)追加</li> </ul>

9



## 4-2. 2022年度の取り組み内容と実績評価

### (2) 売上高あたりの水資源投入量を年1%以上改善

項目	2020年度	2021年度	2022年度
目標 (m <sup>3</sup> /百万円)	3.2299	3.1976	3.1656
実績 (m <sup>3</sup> /百万円)	3.1282	3.0728	3.0706
目標比 (%)	96.9	96.1	97.0
評価	達成	達成	達成

取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用量昨対比上昇店舗の作業オペレーションの見直し、流水解凍、床の水洗い等の見直し、漏水の確認</li> <li>・鮮魚作業室の床ドライ化（1店舗）</li> <li>・既存店の手洗い水栓の自動化</li> </ul>
実績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値は達成しているが、前年度比では99.9%と1%削減に至らなかった。</li> <li>・生鮮デリカセンターの影響が大きいため、生鮮デリカセンターを除いた状態で前年比較すると93.7%となっている。節電に続き、節水意識にも相乗効果が見られた効果と思われる。</li> </ul>
23年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製氷機の不使用期間停止および台数の適正化</li> <li>・昨対比が上昇している店舗への注意喚起や対策の継続</li> <li>・鮮魚作業室の床ドライ化の追加導入（8店舗）</li> <li>・惣菜作業室の床自動洗浄システムの追加導入（2店舗）</li> <li>・節水器具の追加（2店舗）</li> </ul>

10



## 4-2. 2022年度の取り組み内容と実績評価

### (3) 地場野菜の販売額を3年後に10%以上拡大

項目	2020年度	2021年度	2022年度
目標 (百万円)	1,651	1,696	1,728
実績 (百万円)	1,720	1,762	1,867
目標比 (%)	104.2	103.9	108.0
評価	達成	達成	達成

取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者不足店舗のテコ入れ、新規生産者の開拓</li> <li>・余力ある生産者に対し、更なる店舗への出荷要請</li> <li>・より多く売れる作物及び必要作物の提示と協議</li> </ul>
実績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上期に多くの生産者開拓（42名）を行い、出荷量増加。</li> <li>・8月以降、天候の影響を受け不調な時期もあったが、それ以外の時期は出荷量に恵まれ目標を達成できた。</li> </ul>
23年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、生産者開発と新店舗の出荷者確保の継続</li> <li>・店舗と直搬の優良生産者とのコミュニケーション促進</li> </ul>

11

## 4-2. 2022年度の取り組み内容と実績評価

### (4) コピー用紙使用量の1%以上削減

項目	2020年度	2021年度	2022年度
目標 (kg)	28,707	28,419	28,134
(修正)		28,661	27,391
実績 (kg)	29,548	27,950	24,996
目標比 (%)	102.9	97.5	91.3
評価	未達	達成	達成
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・店長パソコンをノートパソコンに変更し、社内会議時の資料のデータ閲覧を促進</li> <li>・ムダな印刷をしないよう呼びかけ</li> </ul>		
実績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートパソコン所持者には会議資料のデータ閲覧を推進したことが大きな成果につながった。</li> <li>・全体の1/4を占めている本社での紙使用量が昨比70.1%まで削減となったことで、全体に占める割合も1/5となった。</li> </ul>		
23年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子決裁の推進</li> <li>・裏刷りの活用、両面印刷、縮小印刷の促進</li> <li>・使用量の多い店舗・部署における個別の原因分析および対策実施、好事例の横展開</li> </ul>		

12

## 4-2. 2022年度の取り組み内容と実績評価

### (5) 廃棄ロス率の改善（毎年0.8以内にする）

項目	2020年度	2021年度	2022年度
目標 (%)	0.8	0.8	0.8
実績 (%)	0.8	0.74	0.75
目標差 (%)	0.0	▲0.06	▲0.05
評価	達成	達成	達成
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロスを意識した発注、製造計画</li> <li>・SV・トレーナーによる定期的な指導</li> <li>・廃棄の目合わせ、自主計量を通じた意識の向上</li> <li>・発注支援システムの導入部門拡大（冷惣菜）</li> </ul>		
実績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標0.8%に対して、0.75%と目標達成。この3年は、コロナ禍での内食需要による売上伸張で相対的に廃棄ロスが下がっている。今後はアフターコロナとなり厳しくなると思われる。</li> </ul>		
23年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発注支援システムの導入部門拡大（フレッシュデザート）</li> <li>・夜間の陳列量適正化および製造・発注計画の見直し</li> <li>・地区長、トレーナーからの指導継続</li> </ul>		

13

## 4-2. 2022年度の取り組み内容と実績評価

### (6) 食品リサイクル法の再生利用率の基準実施率達成

項目	2020年度	2021年度	2022年度
基準実施率 (%)	63.9	64.9	65.9
実績 (%)	74.9	73.6	78.1
目標差 (%)	11.0	8.7	12.2
評価	達成	達成	達成

取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物計量器の導入による、分別徹底、自主計量の推進。</li> <li>・フードバンク等への食品提供の拡大による発生抑制</li> <li>・食品リサイクルの推進</li> </ul>
実績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生鮮デリカセンター稼働による作業集約、柏崎地区の野菜くずリサイクルの新規取組により目標達成となった。</li> <li>・ハピタベの導入、フードバンク・こども食堂との取組を拡大できた。</li> </ul>
23年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フードバンク、こども食堂等への食品提供の更なる拡大</li> <li>・再生利用の拡大に向けた情報収集</li> <li>・廃棄物計量器での計量数字の検証、分別と計量の指導により、正確な排出量の把握</li> </ul>

14

## 4-2. 2022年度の取り組み内容と実績評価

### (7) ウオロクコジカカード提示率のアップ

項目	2020年度	2021年度	2022年度
目標 (%)	71.0	73.0	75.0
実績 (%)	68.9	69.6	70.0
目標差 (%)	▲2.1	▲3.4	▲5.0
評価	未達	未達	未達

取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャージキャンペーンの実施</li> <li>・ボーナスポイントの付与</li> <li>・恵方巻の予約特典をポイント付与に変更</li> </ul>
実績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度提示率より上昇し、70%の壁は超えたものの、目標は未達成となった。</li> <li>・下期はマイナポイントの影響で入会・チャージが増加し駆け込み入会が多かった。</li> </ul>
23年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、各種キャンペーンなどにより、カードホルダーの拡大を推進</li> <li>・ボーナスポイント商品のアピール強化</li> </ul>

15



## 4-2. 2022年度の取り組み内容と実績評価

### (8) 営業車の燃費効率の改善

項目	2020年度	2021年度	2022年度
目標 (km/l)		15.86	16.45
実績 (km/l)	15.54	16.29	16.49
目標差 (km/l)		0.43	0.04
評価		達成	達成

取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車両担当者が個別に実績入力する方法に変更し、毎月燃費を把握</li> <li>・営業車の入替時にはハイブリッド車に変更</li> <li>・急発進、急加速の防止の呼びかけ</li> </ul>
実績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイブリッド車への入替（4台）、各自のエコドライブへの取組みにより、ギリギリだが達成できた。</li> </ul>
23年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、燃費実績を毎月把握</li> <li>・ハイブリッドカーなどエコカーへの入替継続（3台予定）</li> <li>・燃費の向上とコスト削減を結び付けた、エコドライブの啓発</li> </ul>

16



## 4-3. 2023年度からの中期環境経営目標

項目	中期環境経営目標
二酸化炭素排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>①売場面積あたりの系統電力使用量を毎年1%削減</li> <li>②営業車の燃料消費効率を毎年1%改善</li> </ul>
廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>③コピー用紙使用量の削減（3年間で4%削減）</li> </ul>
食品廃棄物等の発生抑制及び食品循環資源の再生利用実施率の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>④廃棄ロス率の改善（3年後に0.73%以内）</li> <li>⑤食品リサイクル法の再生利用率の基準実施率達成</li> </ul>
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥売上あたりの水道使用量を毎年1%削減</li> </ul>
化学物質使用量の削減	該当なし
自らが生産、販売・提供する製品の環境性能の向上およびサービスの改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦地場産直野菜販売額の拡大（3年間で10%）</li> <li>⑧ウオロクコジカカードの提示率拡大（3年後に75%）</li> </ul>

17

## 4-4. 2023年度の環境経営計画

2023年の単年度目標	責任部署	具体的な取組の内容（達成手段）	目標管理担当者
売場面積あたりの系統電力使用量を1%削減	開発部	電力量監視システムの運用、一部冷ケースの夜間停止、室外機の遮熱塗装、冷ケースカーテンの効果検証 自然エネルギーの活用(太陽光発電の導入)	開発部 蒲澤
営業車の燃料消費効率を1%改善	総務部	使用量・燃費の調査と開示による意識付け 無駄なアイドリング防止、ふんわりアクセルの推進 エコカーへの入替	総務部 浅倉 総務部 飯ヶ浜
コピー用紙使用量を2%削減	総務部	決裁方法の検討 紙からの脱却の情報発信、好事例の展開	総務部 飯ヶ浜 総務部 浅倉
廃棄ロス率の改善（0.75%以内）	販売部	発注支援システムの拡大 製造計画の見直し	業務改革部 植松 商品部 佐藤 販売部 山崎
再生利用率の基準実施率達成	総務部	食品廃棄物の分別徹底と再生利用の推進	総務部 成瀬
売上あたりの水使用量を1%削減	開発部	節水器具の検証・導入、製氷機の適正化 惣菜床洗浄システムの導入 鮮魚作業室の床のドライ化	開発部 蒲澤
地場野菜の売上5%拡大	商品部	生産者不足店舗のテコ入れと地元生産者の契約拡大、生産者とのコミュニケーション	商品部 中山
ウオロクコジカカードの提示率拡大（71%）	営業企画部	チャージキャンペーンの実施 会員向けサービスの向上	営業企画部 相馬

18

## 5. 環境・社会貢献の取り組み

### (1) 食品廃棄物の削減とリサイクル

#### ① 食品リサイクルの推進

当社では、すべての店舗・センターにおいて食品リサイクルに取り組んでいます。2022年7月に稼働開始した生鮮デリカセンターでは、排出される食品残渣のほぼ全量をリサイクルしています。

また、国の「食品循環資源再生利用計画」の認定を受けるなど、広域でのリサイクルも行っています。

#### ● 食品リサイクルの実施状況

魚のアラの肥料化	10事業所	魚のアラの飼料化	17事業所
食品廃棄物の肥料化	24事業所	野菜くずの肥料化	4事業所
食品廃棄物の燃料化	6事業所	廃油の飼料化	42事業所

#### ● 次の店舗では、国の食品循環資源再生利用計画の認定を受けています

店舗	所在地	認定年月	処理方法
長岡店・要町店・北山店・蓮湯店	長岡市	11年10月	肥料化
魚沼店	魚沼市	18年11月	肥料化

19

## 5. 環境・社会貢献の取り組み

### ②パイナップル残さを乳牛のエサにリサイクル

2022年度より、生鮮デリカセンターでカットパイナップル製造時に発生したパイナップル残さ（皮と芯）を、乳牛のエサとしてリサイクルしています。

破碎・脱水したパイナップルを牧草や配合飼料に混ぜて与えると、食欲が増すそうです。輸入飼料が高騰しているなか、栄養価が高く消化も良い飼料を地元で調達でき、酪農家さんからも非常に喜ばれています。



パイナップル残さ



新発田市金塚の阿部さん



胎内市東牧の緒形さん

### ③「ハピタベ」の取組みスタート

消費期限・賞味期限が近い商品に貼ってあるシールを集めて、景品に交換したり、寄付ができる取組み「ハピタベ」を新発田市内5店舗で開始しました。「ハピタベ」＝「ハピネス」＋「食べる」。お客様に楽しんでいただきながら、食品ロス削減に取り組んでいます。



## 5. 環境・社会貢献の取り組み

### ④フードバンク等への食品提供

賞味期限や消費期限が残っているにも関わらず、包装破れなどにより販売できなくなった食品等の提供を行っています。

食品を必要としている方への一助となり、同時に食品ロスを削減できるように取り組んでいます。



2022年度も取組み店舗を拡大しました（小舟店・女池店・鳥屋野南店）

### ⑤発注支援システム“sinops®”の導入

AIが販売数量を予測、それに基づいて発注数量を適正な値に調整しています。導入部門を順次拡大し、食品廃棄物の削減につなげていきます。



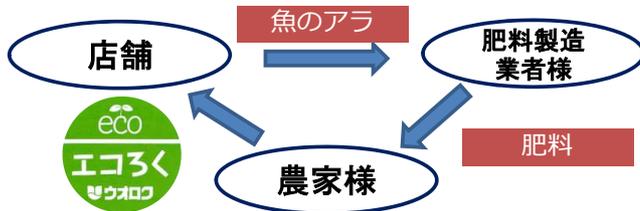
★「sinops®」は株式会社シノプスの登録商標です。

## 5. 環境・社会貢献の取り組み

### (2) 環境や社会に配慮した営業活動

#### ① 「エコろく野菜」の販売

店舗から排出される「魚のアラ」を肥料にリサイクルし、その肥料を使用した農産物を「エコろく野菜」としてブランド化しています。



#### 「黒鳥エコろく茶豆」好評販売中！

新潟の夏の名産品の「茶豆」をエコろく化し、全店で販売しています！



#### ●地場商品の積極販売

地場野菜は、専任バイヤーが農家様と積極的にコミュニケーションをとり、仕入れを強化しています。

また、岩船港・寺泊港など県内各地の漁港から、獲れたての魚介類を毎日納品しています。



## 5. 環境・社会貢献の取り組み

#### ②ASC認証の商品の販売

鮮魚部門で取り扱っている「生フィヨルドトラウトサーモン」と「バナメイえび」はASC認証を取得しています。普段のお買い物を通じて、環境や社会に配慮している養殖業者を応援することにつながっています。



#### ●ASC認証とは

自然環境や社会に与える影響に配慮した養殖場で生産された持続可能な水産物の証です。



#### ③移動スーパー「とくし丸」

移動スーパー「とくし丸」を7台稼働させています。ご高齢の方や身体の不自由な方のご自宅前まで冷蔵庫つきの軽トラックで訪問し、毎週2回、お買い物を楽しんでいただいています。また、新発田市、胎内市、阿賀野市と見守り協定を締結し活動しています。



## 5. 環境・社会貢献の取り組み

### (3) 二酸化炭素排出量削減に向けた取り組み

#### ① 太陽光パネルの導入

2022年度は1センターと8店舗に設置しました。店舗で使用する電力量の約20~30%を賄っています。



#### ② 省エネ設備の導入

天井およびスポットライト、冷蔵ケースの照明をLED照明へ切り替え、使用電力量を大幅に削減しています。また、冷凍食品やアイスクリームの売場には扉付きケースを導入しています。



#### ③ 電力使用量の管理

デマンド監視装置“エナッジ®”を導入し、従業員のタイムリーな省エネ行動を促すと共に、本社での監視と店舗への指導を行っています。

また、空調自動制御システム“エナッジ® Air”を導入し、店内環境に応じてリアルタイムな空調操作をAIにより自動化しています。



★「エナッジ®」は株式会社アイグリッドソリューションズの登録商標です。

#### ● 「J-クレジットによるカーボン・オフセット付きリース」を契約

通常のリース料にJ-クレジットの購入金額を上乗せするもので、今回は5 t-CO<sub>2</sub>のJ-クレジットを活用して本社ビル1ヶ月分のCO<sub>2</sub>排出量相当をオフセットしました。

## 5. 環境・社会貢献の取り組み

### (4) 店頭リサイクル活動

古紙回収機（9店舗）、ペットボトル回収機（36店舗）を設置しています。

このほか、アルミ缶・牛乳パック・トレー・ペットボトルキャップも回収しています。



#### ● ボトルtoボトルの取組み

2022年度よりサントリーグループと共同でボトルtoボトルの取り組みを開始しました。



#### ● 「ウオロクリサイクルセンター」

業務で発生した段ボールや発泡スチロール、お客様からお預かりしたアルミ缶や牛乳パックなどの資源物を、納品車両の帰り便を利用して集約し、一括して処理する仕組みを構築しています。これにより、資源物の効率的な回収とリサイクルが可能となり、回収コストとCO<sub>2</sub>排出量の削減を図っています。



★ウオロクリサイクルセンターは（株）ウオロクホールディングスが運営しています

## 5. 環境・社会貢献の取り組み

### (5) 社会貢献活動

#### ① スポーツを通じた地域貢献

- アルビレックス新潟と「オフィシャルクラブパートナー」契約

J1リーグをたたかうアルビレックス新潟を応援しています。



- アルビレックス新潟レディースとスポンサー契約

WEリーグに所属するアルビレックス新潟レディースのトレーニングウェアの右襟下、および試合会場に当社ロゴを掲出しています。



©ALBIREX NIIGATA LEDIES

#### ② 寄付・募金活動

対象商品のお買い上げ1品につき1円を赤い羽根共同募金に寄付する「ハッピーハート新潟プロジェクト第11弾」を行い、1,077,669円を寄付いたしました。



26

## 5. 環境・社会貢献の取り組み

#### ③ 「お好み焼甲子園in新潟」の開催

高校生が新潟の食材を使ったお好み焼のレシピを競い合うレシピコンテストを開催しました。

優勝した新潟中央高等学校「レンレンとコンコン's」の「シャキ！カリッ！ふわっ。。大口レンコンお好み焼き」は、10月に商品化され、生徒さんによる推奨販売会を実施しました。2023年1月には、生徒さんたちが講師となり、優勝レシピの作り方を教える料理教室も開催しました。



#### ④ 「BSNキッズフェスティバル2022」に出展

子どもを対象としたイベントに、ブースを出展しました。紙製サンバイザーづくりと写真撮影を行い、多くのご家族連れに楽しんでいただきました。



27

## 5. 環境・社会貢献の取り組み

### (6) グリーン購入その他の取り組み

取 組 み 内 容
店舗・本社等で使用するトイレトーパーは古紙を再生利用して製造されたものを購入している。
F S C 認証をうけたコピー用紙を使用している。
折り込みチラシには再生紙を含む用紙を使用している。
店外に設置するお客様用ベンチに、廃プラスチックを再生利用して製造した「エコベンチ」を導入している
店舗駐車場の車止めを、廃プラスチックの再生利用で製造した車止めに一部切り替えている。
営業車にハイブリッドカーなどの低燃費車を導入している。
廃棄物の排出量削減と分別を推進するため、廃棄物専用の計量器を導入している。
惣菜加工室に油ろ過機を導入し、食用油の使用量削減を進めている。
本社では、使用済み事務用品（クリアホルダーやクリップなど）の再利用を進めている。

28

## 6. 緊急事態の想定とその対応

### (1) B C P（事業継続計画）の策定と緊急事態への対応

お客様と従業員の安全確保を図るとともに、行政機関など地域と協調しつつ、事業の継続と、ライフラインとしての社会的責任を果たすことを目的として、B C P を策定している。

以下に掲げる事態が発生した場合は、本社に社長を本部長とする危機対策本部を設置するとともに、被災した拠点においても現地対策本部を設置し、防災無線等を活用しながら連携し、対応する。

#### ●危機対策本部の設置基準

非常事態の区分	危機対策本部の設置基準となる目安
地震	震度 5 強以上の地震が発生した場合
水害（大雨・洪水）	大規模な河川氾濫や洪水が発生した場合
伝染病・感染症	県内に感染者が確認された場合
大規模停電等	自社拠点及びその周辺地域にて大規模停電が発生し、自社拠点に甚大な被害が発生することが予測される場合
その他	社長もしくはその代行者が緊急に対応する必要があると認められた場合

29

## 6. 緊急事態の想定とその対応

### (2) 火災発生の予防と発生時の対応

各事業所において、年2回の消防訓練を実施しており、火災発生時は、お客様・従業員の安全を確保し、迅速な消火活動ができる体制をとっている。

また、従業員がシフト勤務であることを踏まえ、午前・午後・夜間の3パターンの防災体制を組み、常に連携を図っている。

### (3) 店舗において食用油等が流出した場合の対応

店舗用、センター用の食用油からの汚染被害を最小限に抑えるため、「油流出対応マニュアル」を作成し、各店の惣菜及びベーカリー部門および城北センターにおいて、毎年1回訓練を行っている。

## 7. 環境関連法規の遵守状況

### 環境関連法規の遵守状況…点検の結果、違反はありませんでした

法規制等の名称	該当する要求事項	遵守状況
廃棄物処理法・新潟県産業廃棄物等の適正な処理の促進に関する条例	廃棄物の排出抑制と適正な処理、マニフェストの発行・保管、報告書の提出	○
食品リサイクル法	食品残さの排出抑制と再生利用等の実施、定期報告書の提出	○
容器包装リサイクル法	再商品化（リサイクル）義務、指定法人への委託料支払、定期報告書の提出	○
資源有効利用推進法	指定表示製品への識別記号の表示	○
省エネルギー法	エネルギー消費原単位・電気需要平準化評価原単位を年1%低減、エネルギー管理統括者・企画推進者の選任、定期報告、中長期計画提出	○
地球温暖化対策推進法	温室効果ガス排出抑制、排出量の算定と定期報告	○
高圧ガス保安法	高圧ガスの有無の確認	○
水質汚濁防止法	特定施設の設置、変更時の事前届け出、事故時の措置（貯油施設を含む）	○
下水道法	下水道使用開始の届出、下水道汚染をしないように監視	○
浄化槽法	保守点検、法定検査、浄化槽の機能確保	○
消防法	防火管理者の選任、消防計画作成、届出、消防訓練の年2回以上実施、防火設備の適正な維持管理	○
騒音規制法・振動規制法・新潟県生活環境の保全等に関する条例及び各市町村条例	指定地域内の特定施設の設置の届出、指定地域内の定格出力7.5kw以上の圧縮機冷凍機（条例では3.75kw以上）届出	○
大気汚染防止法	ばい煙発生施設（ボイラーなど）があるか確認、設置・変更時の事前届出	○
悪臭防止法	臭気の監視・防止、事故時の応急措置及び直ちに市町村長に報告	○
PCB廃棄物処理特別措置法	県知事に保管及び処分状況報告	○
フロン排出抑制法	機器の設置・使用環境の維持・保全、3ヶ月に1回の簡易定期点検、7.5kW以上の機器の1～3年に1回の定期点検、フロン類の算定漏えい量報告	○
家電リサイクル法	対象となる廃棄家電を家電リサイクル法に従って処理	○
小型家電リサイクル法	対象となる廃棄小型家電を小型家電リサイクル法に従って処理	○
自動車リサイクル法	新車購入時にリサイクル料を支払い	○
建設リサイクル法	規模以上の解体工事等の事前届け出（分別解体等の計画）	○
大規模小売店舗立地法	騒音の抑制、廃棄物の適正保管	○

## 8. 代表者による全体評価と見直しの結果

### (1) 環境目標および活動計画の達成状況

2022年度は、中期環境経営目標の3年目の締め括りの年であった。電気使用量の削減については、生鮮デリカセンターを除いた店舗ベースでは目標を達成、その他の目標についてもコジカカード提示率以外は、すべて達成できており、これまでの取り組みが着実な成果につながっている。電気料金値上げなどの環境が厳しいなかで、コスト抑制の面にも効果があった。

細かな活動に加え、空調自動制御システム、鮮魚作業室床のドライ化、ノートパソコンへの入替、発注支援システム、ハイブリッド車など、ハード面への投資が大きな効果につながった。

生鮮デリカセンターについては、工場であることから店舗とは違った目標を立てる必要があり、また、電気や水については、出荷額当たりの使用量で今後の推移を見ていく必要がある。

2023年度については、重点的に力を入れていくところを考えるとキャンペーンを行うなど、知恵を出し合って協力して進めて欲しい。今後も、持続可能な社会の構築のために、環境に配慮しながらも収益を上げていけるよう、E A 2 1に積極的に取り組んでいく。

32

## 8. 代表者による全体評価と見直しの結果

### (2) 環境目標の見直し

2023年度からの新たな中期環境経営計画を策定する（内容については17ページを参照）。中期環境経営目標については、電力使用量についての目標をCO<sub>2</sub>排出量の指標となる「系統電力使用量の削減」に変更する。また、コピー用紙使用量については3年間で4%削減、廃棄ロス率についても3年後に0.73%以内まで改善を目標に変更する。

### (3) 環境システムの実施体制

環境目標それぞれの関連部署から「目標管理担当者」を選任し、事務局の下に位置づけている。事務局と目標管理担当者が一体となることで各事業所へのアプローチ・指導を強化できているので、目標達成実現に向けてこの体制での取り組みを継続していく。

### (4) 環境関連法等の遵守状況

遵守状況を確認した結果、遵守していることを確認した。今後もE A 2 1事務局および内部監査室による環境監査により、遵守状況を随時チェックする。

33